

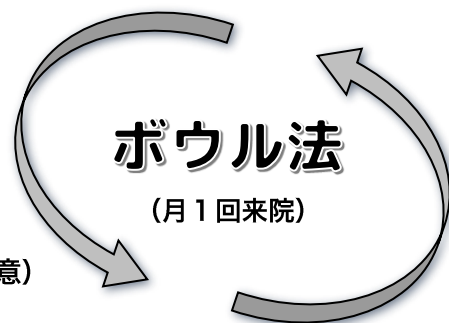
治療の枠組み¹⁾

定期的な病態チェック

* 臨床検査値の評価

- 液性検査 (血液生化学検査etc) (月1回)
- 画像検査 (超音波、X線検査) (頻度任意)
- 心電図 (頻度任意)

* 内臓脂肪量 vs 皮下脂肪量の評価 (頻度任意)



初診時 &/or 必要時に実施

* 病歴 (食歴、既往歴、家族歴 etc) (初診時・任意)

* 身体計測 (体重、BMI、血圧 etc) (初診時・任意)

* グラフ化生活日記法の評価 (初診時・任意)

* 食行動質問表の評価 (初診時・任意)

* グラフ化血圧日記法の評価 (月1回)

* 好きな食材1品療法の評価 (頻度任意)

* 間食メモ法²⁾の評価 (頻度任意)

* 日本食化(超)低エネルギー食療法の評価

(頻度任意)

ボウル法の成果を左欄の検査結果と照合しながら評価すれば、治療の阻害因子が浮かび上がってきます。これらの標的を効率よく修復するには、的確で詳細な患者情報、加えて鋭く問題点を切り込む手立てが必要です。右欄に挙げた一連の治療ツールはその代表的な治療法の例です。

1) 坂田利家: 臨牀と研究 96(7): 868-874, 2019.

2) 坂田利家: 臨牀と研究 96(8): 990-994, 2019.